

寸劇・ドラマ

□所要時間	15 分～20 分程度
□主なスキル	音声のアウトプット（スピーキング）
□形式	例）4～6 人のグループ
□概要とねらい	
劇/ドラマと聞くと、練習を重ね完璧なパフォーマンスを追求するステージ発表を想像し難いものと思われがちですが、ここでは、Drama in Education 由来の英語圏における小学校、中学校、高校の英語（国語）授業、社会人向けドラマ・ワークショップで広く使われている簡単な技法を紹介します。 読んだ本の理解に劇/ドラマがどう役立つのか疑問を持つ方もいるかもしれません。物語の状況を身体で表したり、作中人物になってみることで（ポーズをとってみるだけでも）疑似的でありつつも、その人がどのような状況にいて、何を感じ考えているのかを体験できます。英語のアウトプットの側面からも、文字を単に読み上げるよりも身体動作を伴った場合、より自然な発話になります。よって、文字の理解だけでは得られない、感情を伴った身体的な作品理解を得ることができるのです。Drama in Education では、この気づきや経験から得る学びのプロセスを重視します。近年、教育界で求められている「主体的・対話的で深い学び」を促進する一つの教育アプローチと言えます。 この活動では、しばしば大人しい学生が説得力のある表現をするなど、普段と異なる面を垣間見せることがあります。このタイプの活動が、後に他者理解、自己理解に貢献することが観察されています。ドラマづくりの過程では、メンバー間の意見のすり合わせや協働を要する場面が出てきます。そのため、グループ内で各自に合った役割をみつけることで社会的スキルを獲得するという「副産物」が生まれます。 その他の相互交流型活動と同様に、このタイプの表現が苦手な学生には無理な参加を促さず、オーディエンスや演出家として参加貢献をしてもらうとよいでしょう。	
□事前準備（必要な教材、器具など）	
・ 脚本 ・ 小道具（身近にあるものを利用。必須ではありません。）	
□手順	
ここでは <i>Come Away from the Water, Shirley</i> の読後活動として紹介します。 1. 小グループをつくり、各グループが物語の中から異なる 1 場面を選びます。 2. その場面から、グループのメンバー全員で静止画をつくります。静止画という技法は映像の静止画のように、ある状況や概念を、身体を用いて数秒間静止して表現する活動です。例えば、この物語の一場面「主人公の少女 Shirley が海に向かって佇む光景」	

であれば、1 人が Shirley になり、他のメンバーは海や船、浜辺にいる鴉や犬になります。絵本の場面そっくりそのまま再現するのではなく、その場면을何らかの形で表していればよいのです。静止画をどうつくり上げるかはグループで相談しますが、準備時間は 5 分程度が適切です。短い時間にすることで集中力を持って取り組みます。

3. 物語の時間軸に沿った順番で、各グループが静止画を披露します。その際、教員が“Five, four, three, two, one, freeze.”とカウントダウンし、数秒間の静止画を示してもらいます。さらに教員が（学生でもよい）、静止画中の一人ひとりに 1～2 問の質問をします。（例）少女に以下のような質問を投げかける。“What are you looking at, Shirley?” “Why are standing alone? Don’t you want to play with the children over there?” “Is that your dog?” “What are you thinking now?”, etc.
4. 最後にこの活動の振り返りを行う（口頭振り返りまたはコメントカードに記述）。

【学生の反応】

おとなしく控えめな学習者が多いクラスでは、この活動をする前に身体動作を使った単純なゲームを行ってからこのアクティビティを導入すると抵抗感なく受け止められました。また、クラスのムードメーカー的な学習者と教員自身がデモンストレーションを行うと、他のメンバーはそれを見て何をしたらよいかイメージがつかめ、円滑に進むことが多いようです。このアクティビティは短時間で出来るため、コース中に何回が行ってみるとよいでしょう。

【応用・解説】

上記の活動後、様々な活動を行うことができます。

- ・ 上記の静止画が解けてキャラクターが動き出します。動作と共に台詞を加えて短い場面を演じる。
- ・ 演じたキャラクターの日記を書く。

【その他備考】

【参考文献】

- ・ 渡部 淳（監）・ドラマケーション普及センター（編）（2015）.『コミュニケーション・カード』学事出版（ウォームアップとして使える身体活動主体のゲーム収録）
- ・ 渡部 淳・獲得型教育研究会（編）(2010).『学びを変えるドラマの手法』旬報社
- ・ 渡辺 貴裕・藤原 由香里（2020）.『なってみる学び ―演劇的手法で変わる授業と学校』時事通信社

（文責：草薙優加）